

# 年に1度は胃内視鏡検査を

## 胃内視鏡検査とは

胃内視鏡検査とは、鼻もしくは口から細くて柔軟性のあるスコープを挿入し、咽頭、食道、胃、十二指腸の内壁を観察する検査です。観察により、胃がんやその他の消化器系疾患の病変を発見することが出来ます。

## 胃内視鏡検査で診断できる疾患

胃内視鏡検査では、主に以下の疾患を発見することができます。

- 食道がん
  - 胃がん
  - 十二指腸がん
  - ピロリ菌感染
  - 逆流性食道炎
  - 慢性胃炎
  - 胃潰瘍
- (※これらの疾患は一例です。)



これらの疾患の中で特に気を付けなければいけないのが、**がん**です。

がんは初期段階では自覚症状が少ないため、**気付いた時には進行がん**だったというケースも少なくありません。

また、過去の胃内視鏡検査で異常が無かったからといって安心できるものではありません。

私たちは日々食事をし、食べ物は食道・胃・十二指腸を通っています。毎日活動しているため、定期的に観察する必要があります。少なくとも1年に1回は胃カメラ検査受診を推奨しています。

他にも、胃がんと密接な関係にあるのが**ヘリコバクターピロリ菌**（以下ピロリ菌）です。

日本における胃がんの原因の98%はピロリ菌関連とされており、日本人全体のピロリ菌感染率は約5割といわれています。

胃内視鏡検査時にピロリ菌を見つける検査（保険適用）を実施し、必要に応じて除菌治療を受けることが大事です。



## 私たちは皆さんの健康の手助けを行います

石狩病院では毎日20～30件の胃内視鏡検査を実施し、受けられる方の消化器に異常が無いか観察し、必要時には追加の検査や薬の処方も行っています。せっかく受ける年に1回の健康診断です。意味のある健康診断にしませんか。